

新型コロナ 見えない先行き

どうなれば「小康状態」や「終息」といえるのか？



保険研究部 主席研究員 篠原 拓也

tshino@nli-research.co.jp



しのはら たくや

92年日本生命保険相互会社入社、14年ニッセイ基礎研究所
日本アクチュアリー会正会員

主な著書に「できる人は統計思考で判断する：
「自分の頭で考える力」がつく35のレッスン」

新型コロナウイルスの感染拡大は、先が見通せない。どうなれば小康状態に至り終息宣言が出せるのか、考えてみたい。

感染防止のカギは「潜在的な感染者」

現在の拡大防止策は、集団感染の防止を重視している。これは、医療施設で受診する患者以外に、発症前感染者、不顕性感染者、軽症感染者がいることを想定したものだ。こうした潜在的な感染者も、感染力を持つとみられている。最近の感染症の事例を、少しみてみよう。

まず、2002～03年に流行したSARS（重症急性呼吸器症候群）では、患者が本格的な感染力を持つのは、発症して肺炎に至る約5日後からといわれる。発症前感染者や発症初期患者の隔離により、感染拡大を防いだ結果、早期に終息に至った。

いっぽう、2012年流行開始のMERS（中東呼吸器症候群）は、重症化しにくく、不顕性感染者や軽症感染者がいた。不顕性感染者の感染力は不明だが、隔離は必要とされてきた。これら潜在的な感染者からの感染が、いまも続いているようだ。

インフルエンザの場合も、潜在的な感染者が問題となる。発症しても、通常の風邪と見分けが付きにくい。受診せずに、無理をして会社や学校に来てしまい、その結果、感染が拡大するといわれている。

では、今回の新型コロナはどうか。不顕性感染者や軽症感染者がいるとみる研究者が多い。そこで、潜在的な感染者を念頭に置いた拡大防止策がとられている。

小康期に入るための数値基準はない

拡大防止策により、感染症が終息（患者が1人もいない状態）すれば理想的だ。しかし、専門家の多くは、新型コロナが工

ンデミック（風土病として、感染症が地域に一定の割合で発生し続けること）として定着するとみているようだ。

たとえば、ハーバード大学のマーク・リブシッチ教授は、こう予測している。

〈来年までに、世界の40～70%の人々が、新型コロナに感染するだろう。ただし、感染者がすべて重症となるわけではない。多くは軽症か不顕性感染となるだろう。〉

（The Atlantic誌2020.2.24）

政府は2013年に、「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」を公表している。そこでは、感染症拡大をいくつかの時期に分けて、対策をとることとしている。

海外で感染が発生する「海外発生期」、国内で初の患者が出る「国内発生早期」を経て、国内で初めて接触歴が追えない患者が出る「国内感染期」に入る。新型コロナは現在、国内感染期とみられる。

その後、患者の発生が減少し、低水準でとどまる「小康期」に入れば一段落。ただし、その数値基準は示されていない。

過去の感染症でみる「小康状態」

過去の感染症の小康状態をみてみよう。

【SARS】2002年11月、中国広東省で流行開始。WHO（世界保健機関）には、中国語のレポートが届いたが翻訳されず、対応が遅れた。当時は、英語とフランス語だけがレポートに用いられていたためだ。（※現在は、中国語、アラビア語、スペイン語、ロシア語も用いられている。）

その後、感染が拡大し、2003年3月、WHOは「世界規模の健康上の脅威」と宣言した。感染地域では、徹底した患者の隔離等が行われた。その結果、感染は5月にピークを迎え6月に抑制された。

【韓国でのMERS】2015年5月中旬に、感染した患者が出た。感染していた中東地域からの帰国者が、いくつかの医療機関を受診したことで、二次感染が発生した。韓国では、38人の死亡者が発生した。

感染者の隔離を徹底した結果、6月に感染は失速した。感染が医療施設内にとどまったことも、封じ込めに寄与した模様。

【新型インフルエンザ】2009年4月に、アメリカやメキシコで、ブタ由来のウイルスが、人から人に感染する例が発生。感染は若年層、特に子どもに拡大した。WHOは、警戒フェーズを引き上げ、6月12日よりパンデミック移行を宣言した。

その後、北中米、南米を中心に、感染拡大が続いた。秋には感染者数の把握が困難となり、WHOは12月に感染者数の公表をやめ、死亡者数のみの集計とした。2010年に入ると、流行は通常の季節性インフルエンザと変わらなくなった。8月10日、WHOはパンデミックを解除した。

コロナで「終息宣言」を出す条件

SARSは2003年7月5日にWHOより終息宣言が出された。これは、2～10日間とされる潜伏期間の2倍の日数が経過しても、新たに患者が出なかったことによる。

韓国でのMERSでは、韓国政府が2015年12月24日をもって終息宣言を発表した。2～14日間とされる潜伏期間の2倍の日数を経ても、新規患者がなかったためだ。新型コロナでは、WHOは潜伏期間を1～14日としている。28日間、新規患者が出ないことが終息宣言の条件と考えられる。

新型コロナは、現段階では終息が見通せない。政府の防止策とともに、一人ひとりの予防策の実施が重要と考えられる。